

群 教 セ	G11 - 01
	平 22. 242集

# 互いに認め合い、 自主的に活動する学級活動の工夫

— 「絆シート」と「話し合いの手引き」を取り入れた話し合い活動を通して —

長期研修員 眞塩 康彦

## 《研究の概要》

本研究は、学級活動において、互いに認め合い、自分を肯定的に認識し、自主的に活動する意識をもつことを目指したものである。児童の思いや考えを引き出す「絆シート」と計画委員による話し合い活動の進め方を工夫する「話し合いの手引き」を取り入れ、話し合い活動の活性化を図った。また、互いのよさを基に、児童相互の認め合いから、役割分担を決める話し合い活動や一人一人の児童のよさを学級生活に生かし自己決定をする実践を行った。

**キーワード** 【学級活動 絆シート 話し合いの手引き 認め合い 話し合い活動】

## I 主題設定の理由

平成20年の中央教育審議会答申では、「人間関係の希薄化、集団のために働く意欲、話し合って解決する力の不足などが顕著で、社会性の育成が不十分である」と述べている。学習指導要領解説特別活動編には、「望ましい人間関係の形成」を重視し、各内容の目標すべてに明記し、体験活動や話し合い活動をより一層充実させることが重要であると記されている。さらに、自主的、自治的な活動を一層重視し、発達の段階に即し、低・中・高学年ごとの内容が位置付けられた。これを受け、平成22年度の群馬県学校教育の指針には、よりよい生活づくりを形成する力の育成を目指して、話し合い活動の一層の重視が記されている。

協力校の6学年の児童は、明るく学級生活を送り、学校行事は協力し合って取り組んでいるように見える。しかし、その中には、学級の中で自分の存在を肯定的に認識できていない児童もいるように見える。これに対し、担任は、児童の頑張りやよさを見取り、他の児童に積極的によさを伝え、認め合うことの大切さを繰り返し指導しているものの、児童が互いに認め合う関係にまで至っていないようである。また、学級活動とは、児童が自主的に計画し話し合い、集団決定した事項を実践するものであるが、思いや考えを伝え合って討議する話し合い活動にはほど遠く、話し合い活動をどう計画すればよいか戸惑っている児童も見られる。

これらを踏まえて、児童が自主的に話し合い活動を計画、実践し、事後の活動を協力し合って行うことを通して、学級の中で、自分のよさを生かして役割を果たし、互いに認め合う関係を築くことが大切である。そのため、児童が自主的に話し合い活動を実施するために、計画委員を中心に話し合い活動を行うこと、自分の考えを述べ話し合い活動を行うことが必要である。また、互いに認め合う活動を通して、自分を肯定的に認識することが重要である。そこで、話し合い活動と体験活動を関連付け、平素と異なる生活環境にあって児童相互にかかわりを深める体験ができる修学旅行を取り上げる。修学旅行に向け、学級が目指す目的意識をもち、自分の意見を伝える。児童相互の認め合いから、一人一人が自分のよさを生かした役割分担を決定する話し合い活動を行い、班のために進んで役割や責任を果たし活動する。さらに修学旅行後に、児童相互の認め合いから、そのよさを学級生活に生かす話し合い活動を位置付ける。この活動を通して児童が互いに認め合い、自分を肯定的に認識でき、自主的に自分のよさを学級生活に生かす意識をもつことができると考えた。

本研究は、学級活動の話し合い活動の場面に「絆シート」と「話し合いの手引き」を取り入れ、集団決定し、話し合い活動の活性化を図る。また、協同的に討議ができるよう話し合い活動の進め方を工夫し、児童が自主的に話し合い活動を実践することで、互いに認め合い、自主的に活動する学級活動ができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

学級活動において、「絆シート」と「話し合いの手引き」を取り入れた話し合い活動を行うことによって、互いに認め合い、自分を肯定的に認識し、自主的に活動する意識を高められることを実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し

- 1 「伝える」過程で、学級生活にかかわるアンケートから学級の目的意識をもち、修学旅行のスローガンを作成する話し合い活動に「絆シート①」と「話し合いの手引き」を取り入れれば、自分の考えを伝え合うことができ、互いに認め合う意識を高めることができるであろう。
- 2 「認め合う」過程において、同じ班の児童のよさを生かし役割分担を工夫して決定する話し合い活動に「絆シート②」と「話し合いの手引き」を取り入れれば、他の児童からみた自分のよさに気づき、修学旅行の班活動での役割を進んで果たそうとする意識を高めることができるであろう。
- 3 「生かす」過程において、認め合い活動後の学級生活の向上に役立つ行動を自己決定する話し合い活動に「絆シート③」と「話し合いの手引き」を取り入れれば、自主的に自分のよさを学級生活に生かそうとする意識を高めることができ、互いに認め合い、自主的に活動することができるであろう。

## IV 研究の内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 「互いに認め合い、自主的に活動する学級活動」について

「互いに認め合う」とは、一人一人の児童がもっているよさを互いに理解し合うことである。「よさ」とは、対人関係上の性格にかかわるよさ、意欲や頑張りなど行動にかかわるよさ、技能面にかかわるよさとした。「自主的に活動する学級活動」とは、児童が、学級生活の向上のために課題を見だし、自主的に話し合い活動を計画、運営する活動や進んで協力し合って集団決定する活動、そして、集団決定した事項について役割や責任をもち進んで遂行する活動である。

#### (2) 「伝える・認め合う・生かす」の過程に「絆シート」を活用した話し合い活動について

児童が自分の考えを伝え合い、自分のよさに気づき、自主的に話し合い活動を実践するため話し合い活動に「絆シート」を取り入れる。「絆シート」は、中央にテーマを書き、その周りの枠に関連性のある言葉や理由を記入できる様式のシートであり、児童の多様な思いや考えを引き出し、理由を明確にし発表できるようにする。

「伝える」過程では、修学旅行のスローガンに入れたい言葉や理由を記入できる「絆シート①」を取り入れ、一人一人の思いや願いを生かして話し合い、修学旅行のスローガンを作成する。

「認め合う」過程では、班の児童のよさやそれに合う係を記入できる「絆シート②」を取り入れる。「絆シート②」に記入した互いのよさを基に、班の役割分担を決める話し合い活動を行うことで、自分のよさに気づき、自分を肯定的に認識し、役割を進んで果たそうとする意識を高める。

「生かす」過程では、自己決定をする場面において、「絆シート③」の自分のよさから、学級生活に生かす具体的な行動を記入できる「絆シート③」を取り入れる。個々の児童のよさを生かし、学級生活向上に役立つ行動を話し合い、自己決定を行うことで、自主的に自分のよさを学級生活に生かそうとする意識を高め、互いに認め合い、自主的に活動することにつながると思われる。

#### (3) 「話し合いの手引き」を活用した話し合い活動について

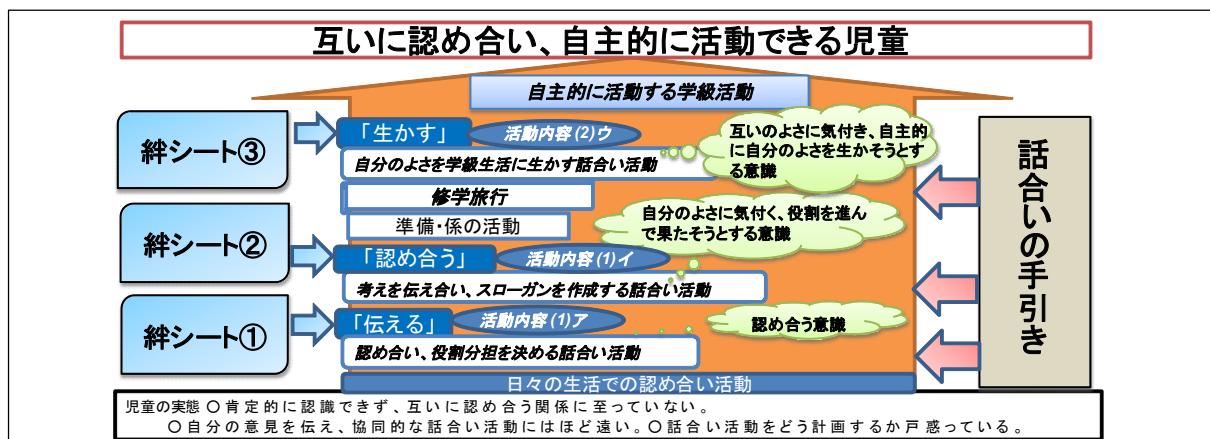
児童が、学級の課題を見付け、自主的に話し合い活動を計画、運営する活動を実践し、進んで協力し合って話し合い活動に取り組めるよう「話し合いの手引き」を活用する。「話し合いの手引き」は、話

合い活動の意義や進め方、役割分担や活動計画、発表の仕方などを資料としてまとめたものである(表1)。これを児童全員に配付し、話し合う意義や進め方の理解を図る。計画委員が話し合いの計画、運営ができるよう活動計画や議題提案、司会の言葉を取り入れ、円滑に話し合いを進行できるようにする。

表1 「話し合いの手引き」の内容

全児童	・話し合いの意義「なぜ話し合いをするの」「どんなことを話し合うの」 ・意見の伝え方「こんな意見が言えると素晴らしい」 ・意見の聞き方「こんな姿勢で聞けると素晴らしい」
計画委員の児童	・役割の説明「計画委員会を作ろう」「話し合いの役割」 ・話し合いの進め方「活動計画を立てよう」「司会の言葉」

## 2 研究構想図



## V 研究の計画と方法

### 1 実践計画

対象	小学校第6学年 1～3組(3学級)	計87名
単元名	自分のよさを生かそう	
期間	9月28日 10月6日 11月9日	
授業者	長期研修員 眞塩 康彦	

### 2 抽出児童

A	自分の意見を進んで発表し、委員会などでは積極的に活動できる。しかし、他の児童にどう思われているか不安に感じている。計画委員として話し合いを運営し、体験活動や集団思考で視野を広げる体験を通して、学級全体のことを考えた行動を自己決定し、自己肯定感をもち自主的に活動できるようにしたい。
B	「学級で自分はあまり役に立ってない」と感じ、自分の意見を発表することがあまりない。考えや理由を明確にして自分の思いや願いを伝えられるようにし、他の児童が挙げたよきから、進んで役割を果たし認められることを通して、自分のよさを生かした行動を自己決定し自信をもって活動できるようにしたい。

### 3 検証計画

研究項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	学級生活にかかわるアンケートから学級の目的意識をもち、修学旅行のスローガンを作成する話し合い活動に「絆シート①」と「話し合いの手引き」を取り入れたことは、自分の考えを伝え合うことができ、互いのよさを認め合う意識を高める上で有効であったか。	・活動の観察 ・「絆シート」の内容 ・活動前後のアンケートの比較
見通し2	同じ班の児童のよさを生かし役割分担を工夫して決定する話し合い活動に「絆シート②」と「話し合いの手引き」を取り入れたことは、他の児童からみた自分のよさに気付くことができ、修学旅行の班活動での役割を進んで果たそうとする意識を高める上で有効であったか。	
見通し3	認め合い活動後の学級生活の向上に役立つ行動を自己決定する話し合い活動に「絆シート③」と「話し合いの手引き」を取り入れたことは、自主的に自分のよさを学級生活に生かそうとする意識を高め、互いに認め合い、自主的に活動する上で有効であったか。	

### 4 題材の目標及び評価規準

#### (1) 題材の目標

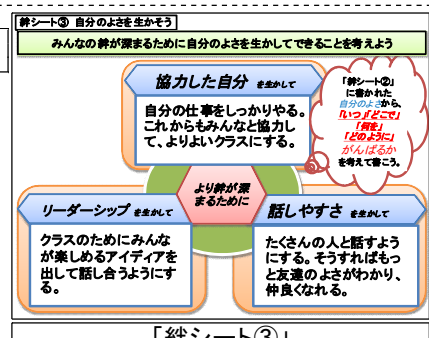
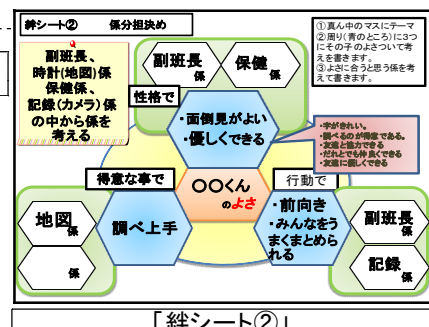
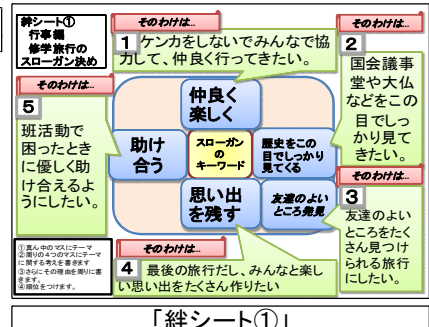
修学旅行のスローガンや役割分担を工夫する話し合い活動の中で、集団決定したり、学級生活の向上のために自分の取組を自己決定したりすることを通して、集団の一員としての意識を高め、互いに認め合える関係を築くとともに、自主的に活動することができる。

(2) 評価規準

観 点	活動内容(1)「学級や学校の生活づくり」	活動内容(2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」
集団活動や生活への関心・意欲・態度	修学旅行の充実にかかわる諸問題について関心をもち、進んで自分の考えやその理由を伝え合って協力して話し、自主的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や自己の生活の充実、望ましい人間関係の形成にかかわる問題に関心をもち、進んで自分の思いや願いを伝え合って話し、自主的に自分のよさを生かし日常生活に取り組もうとしている。
集団の一員としての思考・判断・実践	修学旅行を充実するために話し、自分の役割や集団としてのよりよい方法について考え、判断し、集団の一員としての自覚をもち、信頼し支え合って実践している。	学級や自己の生活の充実、望ましい人間関係を形成するために話し、自分に合ったよりよい方法について考え、判断し、互いに認め合い、信頼し支え合って実践している。
集団活動や生活についての知識・理解	修学旅行や学級生活をよりよくすることの大切さや話し活動の意義、話し活動の効率的な進め方などについて理解している。	望ましい人間関係を築くことよきや学級生活をよりよくすることの大切さ、そのための生活の仕方などについて理解している。

5 指導計画

		活動内容	研究上の手だて
伝える	1 事前	○「話し合いの手引き」から話し合いの意義を理解する。 ○活動計画を立てる。	○児童が協同的な話し合いができるよう「話し合いの手引き」を児童全員に配付して説明を行い、話し合いの意義を理解できるようにする。 ○計画委員が、話し合いの役割や進め方を理解できるよう「話し合いの手引き」を取り入れ、活動計画を作成する。
	本時	自分たちの思いを生かした修学旅行のスローガンを考えよう。  ○「絆シート①」にスローガンに入れる言葉を記入し、思いや考えを伝え合う。 ○「絆シート①」を基にして各班で話し、修学旅行のスローガンを作成する。	研究上の手だて ○一人一人の思いを伝えられるよう「絆シート①」を取り入れ、修学旅行のスローガンに入れる言葉や理由を複数挙げられるようにする。 ○互いに認め合う意識を引き出せるよう「絆シート①」から、児童の素直な思いや願いを共有し、スローガンを作成するようにする。
	事後	○スローガンを発表する。	
認め合う	2 事前	○活動計画を立てる。 ○「絆シート②」に班の児童の性格、行動、技能面にかかわるよさを記入する。	○計画委員が、課題意識をもって話し合いができるよう「話し合いの手引き」を取り入れ、活動計画を作成する。 ○班の児童のよさを引き出し、記入できるよう「絆シート②」を取り入れる。
	本時	班の児童のよいところをさがして、それに合う係分担任を決めよう。  ○「絆シート②」を基にして班で話し合い活動を行い、班の役割分担任を決める。	○個々の児童のよさや適性に合う役割分担任を決められるよう「絆シート②」を取り入れる。 ○自分のよさに気付く、役割を進んで果たそうとする意識を高めるよう「絆シート②」に記入した互いのよさを基に、班の役割分担任を決める話し合いを行う。
	事後	○決定した内容を実行する。	
修学旅行 【鎌倉班別活動】			
生かす	3 事前	○認め合い活動を行い、修学旅行を振り返る。	○計画委員が、司会を担当する。
	本時	学級生活をよりよくするために自分のよさを生かす行動を考えよう。  ○「学級のため」「絆を深めるため」などのめあてから、話し合い活動を行う。 ○「絆シート③」を取り入れ、自分のよさを学級生活に生かす行動を自己決定する。	○互いに認め合い自分のよさを生かし、自主的に活動しようとする意識を高めるため、学級をよりよくしたい思いや願いを共有し、学級が目指す姿を話し合うようにする。 ○「絆シート②」でのよさを資料として配付し、よさを生かした具体的な行動を自己決定できるように「絆シート③」を取り入れる。 ○自己決定した取組を実践する。
	事後	○自己決定したことに取り組み、実践を継続する。	



VI 研究の結果と考察

1 考えを伝え合い、互いに認め合う意識を高めるために「絆シート」と「話し合いの手引き」を取り入れたことの有効性について

「話し合いの手引き」資料例

**なぜ「話し合い」をするの？**

みんなの思いや考えをもとにして

**みんなでよりよい学級を作るため**

学級での仲間、係活動のこと、学級目標、集会のこと、みんなで決めておきたいこと

みんなの思いや考えを認めながら

**一人一人がよりよい生活を送るため**

生活や学習の仕方、よさを認め合う、働くこと、健康や安全のこと、食生活

**何を話し合えばいいの？**

みんなと仲良くなり  
たいな。  
みんなと一緒に何か  
やりたいな  
でも、自分だけじゃ  
できないもんなあ～

1 話し合うことは、どんなこと？

① みんなから

- 学級がよくなるために「みんなでこんなことをしたいな」ということ
- みんながこまっていること
- みんなで決めておきたいこと

図1 「話し合いの手引き」 話し合いの意義

**計画委員会をつくろう**

**計画委員会は、司会グループ、提案者、先生**

○ 仕事の分担（5人の場合）

司会さん…1人	副司会さん…1人
ノート書記さん…1人	黒板書記さん…2人

○ 話し合いまでに、計画委員がやっておくこと

**1 学級で話し合う議題を、みんなの意見から決める手伝いをします。**

- みんなに学級の問題を出してくれるように呼びかけをします。
- 議題ポストに入っていたみんなの意見を整理します。
- 整理した意見を紹介して、みんなで話し合う議題を決めます。

**2 どんな話し合いにするのか、計画委員が相談して計画を立てます。**

- どんな話し合いにしたいのか、どんなことを話し合うのか決めます。
- 協力し合って話し合いができるよう流れを話し合いカードに書きます。
- 話し合いの予定とおねがいを連絡します。
- リハーサルをやって準備OK。協力し合ってがんばろう！

**3 話し合いの計画を立てて、みんなに知らせます。**

- 今度の話し合いで、一番大事なことは何か。
- 話し合いの順じよと、時間のわりふり。

図2 「話し合いの手引き」 計画委員会

(1) 結果

① 「話し合いの手引き」を取り入れた事前の活動について

児童が協力し合って話し合い活動ができるよう児童全員に「話し合いの手引き」を配付し、話し合いの意義や内容の説明を行った(図1)。児童は、自分たちが話し合う内容を考え、運営することや協力して話し合いに参加することを理解することができた。

3学級6名ずつの計画委員を集め、全学級同一歩調で進めた。計画委員の児童が話し合い活動の計画、運営ができるよう「話し合いの手引き」、「計画委員の役割」や「話し合いの進め方」を説明した。児童は、話し合い活動の進め方を把握し(図2)、意見を出し合って、活動計画を各学級ごとに立てることができた(図3)。提案理由として「友達のよさを見付ける修学旅行にする」を挙げ、スローガン作成を各学級共通の議題とした。

② 「絆シート①」を取り入れた話し合い活動について

修学旅行のスローガンを作成するため、「話し合いの手引き」から学んだことを生かし、活動内容を各学級ごとに実施した。計画委員からの議題提案では、「友達のよさを見付けられない」などの課題をグラフを用いて説明した。多くの児童が、それを納得して聞くことができた。

児童一人一人の思いや願いを伝えられるようスローガンにしたい言葉や理由を記入できる「絆シート①」を取り入れた。児童は、多様な思いや願いを記述し、互いに認め合う意味に関連する言葉を多く記入できた(表2)。班の話し合い活動は計画委員が司会を務め、スローガンに取り入れたい言葉に順位を付け、児童全員が発表できるようにした。その結果、「絆シート①」で自分の考えを明確にでき、ほとんどの児童が意見を伝えることができた。抽出児童A、Bは、「絆」

話し合いの  
班(めあて)

6年 組の絆を深めるために、修学旅行の  
スローガンを決めよう

議題  
【友達のよさを見付ける  
言葉を考えるスローガン】

1人3つ以上書く。  
順位をつけて言う。理由を言う。  
班で4・5つにはる(決定)

つなげてスローガンにする。  
発表者を決める。  
発表

時間	話し合いの順序(係)	話し合いの内容、流れ	備考
1	1 はじめのこぼ		
2	2 計画委員会の紹介		
3	3 議題の議題		
4	4 提案理由の説明		
5	5 話し合いのめあて		
6	6 「絆シート」を書く。 「個人で修学旅行のスローガンに するキーワードを書く。」		
7	7 話し合い 班① 「班のスローガンを決めよう」		
8	8 決まったことの見表		
9	9 ふり返りをしよう。		
10	10 先生の話		
11	11 おわりのこぼ		

図3 計画委員による活動計画

表2 「絆シート①」児童の意見

楽しく	62人	仲間	8人
思い出	45人	班行動	5人
仲よく	33人	最高	5人
協力する	33人	元気	4人
絆・よさ発見	30人	努力	3人
歴史を見る	28人	真面目	2人
助け合う	26人	優しく	2人
友情	21人	歴史	2人
みんな笑顔	16人	計画的	2人
心に残る	15人	ステキ	2人
安全	9人	考える	2人
明るく	9人	最高	2人

※ 1人の意見は除く

「楽しく」「助け合う」「思い出」などを伝えることができた(図4、5)。話し合いでは、意見を集約、精選し、集団としての意見をまとめることができた。話し合いの結果、「絆」「仲良く」「助け合う」などの言葉を多くスローガンに採用できた。



図4 話し合いの様子

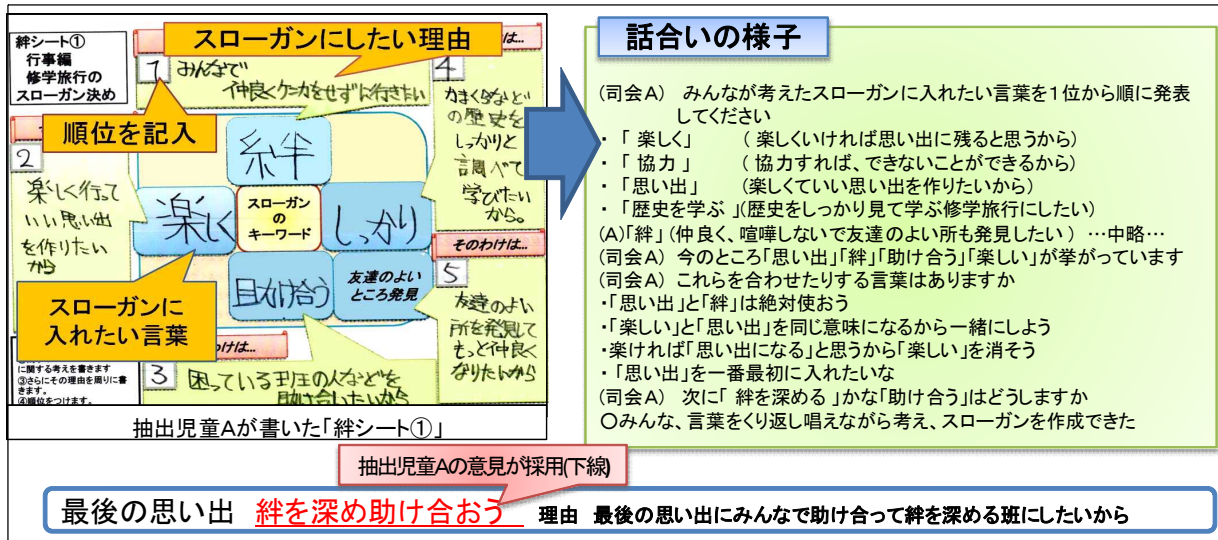


図5 抽出児童Aの班のスローガン作成の様子

抽出児童Aは、司会進行をした。事後の感想(表3)からは、他の児童の協力が円滑な話し合いを促したことが分かった。また、抽出児童Bは、「友情」「助け合う」など、決定したスローガンの言葉を二つ提案できた。事後の感想から、自信をもって思いや願いを伝えられていた。

(2) 考察

図6から、「絆シート①」を取り入れたことで、自分の思いや願いを伝えられた児童が増加した。これは、児童が「絆シート①」に言葉とその理由を見やすく記入でき、自分の考えを明確にして伝えることができたからと考える。また、「話し合いの手引き」を取り入れたことで、児童は話し合いの意義や進め方を理解し、円滑に話し合いを進めることができた。このことから、「話し合いの手引き」が、活動計画の立案と見直しをもった進行に有効であったと考える。児童は、互いに認め合う意味の言葉を多くのスローガンに採用していた。これは、「話し合いの手引き」を取り入れた児童主体の話し合い活動を行ったことで、議題提案を自分の問題として聞き、他の児童との関係をよりよくしたい素直な思いや願いを「絆シート①」に表出でき、共有できたからだと考える。以上から、「絆シート」や「話し合いの手引き」を取り入れたことにより、自分の考えを伝え合い、互いに認め合う意識を高める上で有効であったと考える。

表3 抽出児童の感想

【抽出児Aの感想】 話し合いは予想以上によくできた。みんな意見を静かに聞いてくれて進めやすかった。計画を始めから作るのは大変だけど、それにそって進められ、楽しく、安心して進められた。

【抽出児Bの感想】 楽しく話せた。はやく修学旅行に行きたくなった。枠があって分かりやすく書け、自信をもって発表できた。

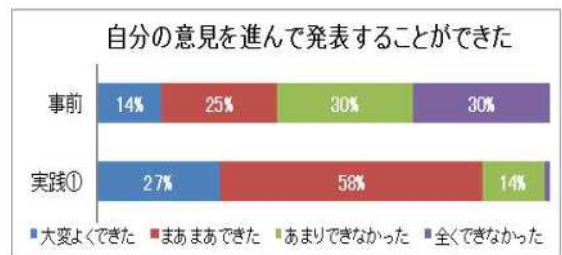


図6 事前と事後のアンケート結果

2 自分のよさに気付き、進んで役割を果たそうとする意識を高めるために「絆シート」と「話し合いの手引き」を取り入れたことの有効性について

(1) 結果

① 「話し合いの手引き」を取り入れた計画立案について

学年の計画委員の話し合いでは、「話し合いの手引き」の「話し合いの役割」から課題を出し合った。意見をまとめることに課題を



図7 係決めの様子

もつ児童が多く、話し合いでは賛否を確認して進めることを共通理解できた。「絆シート②」を取り入れた活動計画を各学級ごとに立てた。児童は、実践1の提案理由からよさを生かした係決めを行うことを議題とし、「性格」「行動」「技能面にかかわる得意なこと」の三種類のよさから一番適性に合う係を発表することを決定し、効率よく計画を立てることができた。

## ② 「絆シート②」を活用した話し合い活動について

自分のよさに気付くことができるよう「絆シート②」に記入した互いのよさを基に、班の係分担を決定する話し合いを行った。事前に全員に「絆シート②」を配付し、記入するようにした。

授業では、三種類のよさに合う係を一つずつ記入する場面から始めた。児童は、他の児童について多くのよさを挙げ、その適性に合う係を真剣に考えて記入することができた(表4)。次に、一番適する係を選び、発表した(図7)。「絆シート②」で自分の考えや理由を明確にできたため、ほとんどの児童が意見を伝えることができた。

話し合いでは、一人ずつ係とそのよさを発表し、係を調整しながら一番適性に合う係を集団決定した。それを本人に伝え了解することで進められた。児童は、係が決定すると拍手がおこるなど温かい雰囲気で行進することができた。抽出児童Bは、図8のように係が決定した。やりたい係があったが、納得して引き受けることができた。また、計画委員は、「話し合いの手引き」を基に課題意識をもって進んで話し合いを進行し、他の児童と協力し合って集団決定をすることができた。

表4 「絆シート②」の児童の意見ベスト10

性格のこと	行動のこと	技能面にかかわる得意なこと
明るい 45	皆に話しかけられる 53	字がきれい 55
優しい 31	まじめに行動 41	物知り 47
しっかりもの 28	楽しく盛り上げる 38	調べ上手 38
心が広い 28	意志が強い 30	賢い 37
楽しい 27	皆をまとめられる 27	計算が速い 31
穏やか 25	悪口を言わない 18	パソコンが得意 23
責任感 24	笑顔で話せる 18	乗り物に詳しい 18
ユーモア 20	積極的に行動できる 16	地図を見ること 13
頑張りや 18	時間を守る 15	計画性がある 13
友達思い 16	温かい言葉をかける 15	写真を撮るのが上手 11
気が利く 16	ルールを守る 13	歴史にくわしい 9
	いろいろ教えてくれる 12	
全 24 種類	全 27 種類	全 22 種類

※ 数字は、言葉を挙げた児童数

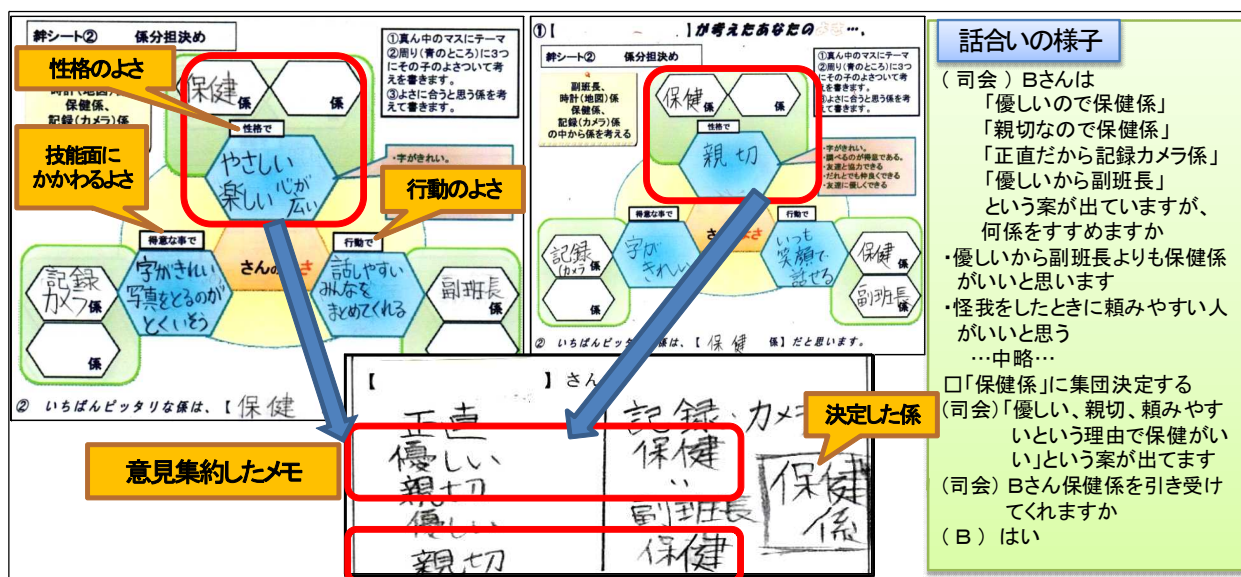


図8 抽出児童Bの係が話し合いにより決定していく様子

事後の感想から、抽出児童Aは、他の児童からみた自分のよさを知り、進んで自分の役割を果たそうとする意識を記述できた。また、抽出児童Bは、他の児童がよさをたくさん挙げてくれたことで、認められた充実感をもてたことを記述していた(表5)。

## (2) 考察

表4や図9から、他の児童の多様なよさを引き出し、その児童に適した係を話し合うことができるよう「絆シート②」を取り入れたことで、自信を高めることができた児童が飛躍的に増加したことが分かった。これは、三種類のよさに限定したことで、具体的に考えやすく、考えを明確にして

表5 抽出児童の感想

【抽出児童Aの感想】 みんなに思われていたことや感じていることが分かった。みんな納得して話し合いができた。班長として、うまくまとめていきたい。

【抽出児童Bの感想】 なりたかった係になれなかったけど、班の人が私のよさをいっぱい言ってきて、みんなが進めてくれた係になれて良かった。班のために頑張ろうと思った。

発表できたことや他の児童の評価を聞き、自分では気付かないよさを知ることができたためと考える。

事後の児童の感想では、「よさをたくさん伝えてもらって、係の仕事をしっかりできそう」「全員がこの係を勧めてくれ、みんなのために頑張りたい」など自主的に活動しようとする記述が多く見られた。これは、班の児童が自分のよさを挙げ、係を勧めて

くれたことで、自分を肯定的に認識でき、その期待に応えようとする意識が高まったからであると考え。以上から、「絆シート②」や「話し合いの手引き」を取り入れたことは、自分のよさに気づき、進んで役割を果たそうとする意識を高める上で有効であった。しかし、「絆シート②」に記入したよさと係の仕事内容との関連が乏しい児童も数名見られた。これは、係の仕事内容やその適性についての共通理解が不十分であり、補足説明を充実させる必要があると考える。

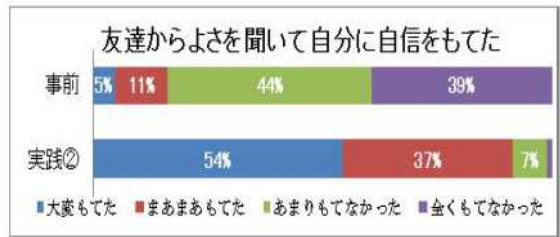


図9 事前と事後のアンケート結果

### 3 互いのよさに気づき、よさを学級生活に生かそうとする意識を高めるために「絆シート」と「話し合いの手引き」を取り入れたことの有効性について

#### (1) 結果

##### ① 修学旅行後の認め合い活動や話し合い活動の題材立案について

修学旅行の班別行動において、児童は、係の役割を進んで果たしていた。その後、役割を果たした成就感をもてるよう認め合い活動を行った。児童は、感謝の気持ちを伝え合うことができ、他の児童のよさに気づき、互いに認め合うよさを実感として学ぶことができた。学年の計画委員との話し合いでは、修学旅行の経験から、みんなのために行ったことが学級に生かされていないことが課題として挙がった。そのため、学級をよりよくするためにできる取組を考えることを題材とした。計画委員の活動については、様々な意見を出し合う場面の司会をすることに決定した。

##### ② 「絆シート③」を活用した話し合い活動について

児童が自分のよさを生かした行動を自己決定できるよう「みんなのために」という観点から学級が目指す姿を全体で話し合うようにした。児童は、課題を自分のこととして考え、「今からでも、思いやりのある協力できる学級にしたい」「自慢できる学級にしたい」などの願いや思いを素直に挙げる事ができた。個々のよさを生かすことを話し合う場面では、計画委員が司会をし、「みんなが仲間と思えば、思いやりのある学級になる」「助け合えば、感謝され絆が深まる」「会話をたくさんすれば、気持ちが伝わり絆が深まる」などの考えにまとめることができた(図10)。



図10 話し合いの様子

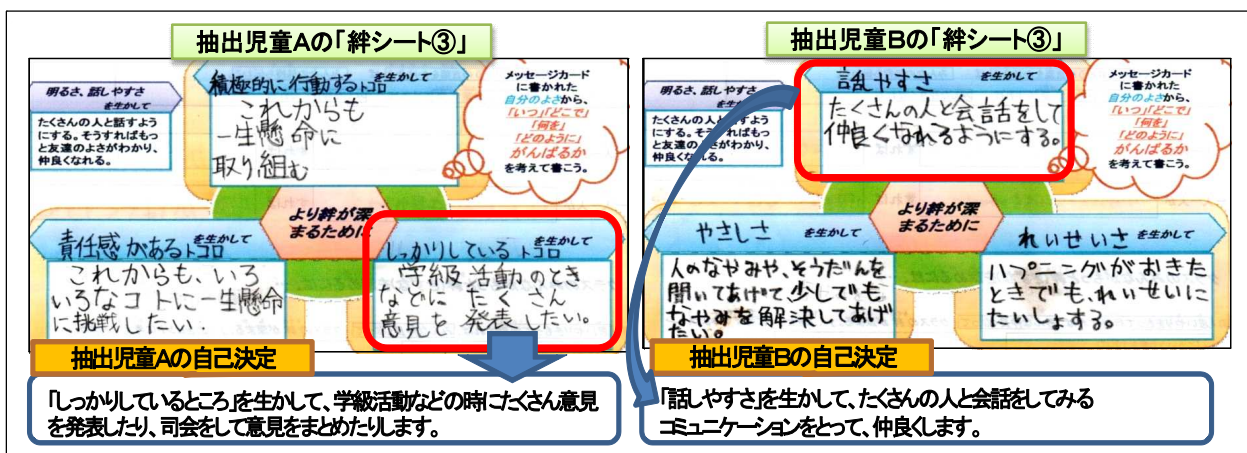


図11 抽出児童A、Bが自己決定した内容

話し合い後に、学級のために自分のよさを生かした行動を考えられるよう「絆シート③」を取り入れ、自己決定を行うようにした。また、三種類に限定した自分のよさから行動を考えられるよう、実践2でのよさを一覧表で配付した。図11から、抽出児童Aは、三つのよさを選び、そのうち、「しっかりしている」を選択



して、学級活動の司会や意見集約など、学級をまとめていくことを自己決定した。抽出児童Bは、「話しやすさ」を選択して、他の児童に進んでかかわることを挙げることができた。

## (2) 考察

表6から、抽出児童A、Bは、他の児童の意見を聞き、自分の考えを深めることができたことが分かった。また、事後の児童の感想では、「自分のよさを生かし、できることがあればやろうと思った」「意見を聞いて、確かにこうした方がよいと思った」などの記述が多く見られた。これは、「話し合いの手引き」で学んだことを生かし、素直な思いや願いを全体で共有し、個から集団への意識が高められたことが、自分のよさを学級生活に生かそうとする意識につながったと考える。

実践後のアンケート調査から、抽出児童の二人は、自己決定したことを「進んで取り組んでいる」と回答した。また、担任の見取りから、児童会活動では、自分の考えを進んで提案し活動できた。また、学級では進んで声を掛け合ったり、今まで発言しなかった児童も、はっきりと発言できたり、自己決定した内容を意識し活動できたことが分かった。これは、認め合い活動から、班活動において役割を果たした成就感や役立つ喜びを体得できたこと、さらに、学級をよりよくしたい思いや行動を「絆シート③」に表出でき、新たな目標を自己決定したことが、自主的に活動する意識につながったと考える。以上から、「絆シート③」や「話し合いの手引き」を取り入れたことにより、互いのよさに気付き、自分のよさを学級生活の中で生かそうとする意識を高め、自主的に活動しようとする意識をもつことができた。

表6 抽出児童の感想

【抽出児童Aの感想】 みんなよく考えているなと思った。いいクラスになるよう頑張ろうと思う。  
 【抽出児童Bの感想】 いろんな意見を聞いて、考えさせられました。自分と違う意見を聞いてよかった。自分にできることを頑張ろうと思う。

## 4 実践を通じたまとめ

### (1) 「絆シート」を取り入れたことについて

表7から、「絆シート」は、児童にとって、多様な考えを引き出すのに役立ち、理由と結論を関連付けて簡単に記述でき、発表しやすかったことが分かった。このことから、意見を伝え合う上で「絆シート」を取り入れたことは、有効であった。

図12の事前と事後のアンケート調査では、多くの児童が、自分のよさや自信がもてる個数が増加した。また、抽出児童A、Bの記述内容には、班の児童が挙げたよさを記述し、自分のよさとして認識していたことが分かった。このことから、「絆シート」を取り入れたことは、自分を肯定的に認識でき、よさを互いに理解し合う上で有効であったと考える。しかし、「絆シート」には記入できても、積極的に意見を伝えるまで至らない児童も見られた。内容や活用の仕方をさらに工夫することが必要であると考えられる。

表7 「絆シート」の児童の感想

- ・修学旅行のスローガンに入れたい言葉と理由が書ける枠が十分あり、たくさんの考えが書けた。
- ・簡単にできて、見やすく発表できた。
- ・友達のよさが書きやすく、三つのよさが分けられ、係が決めやすかった。

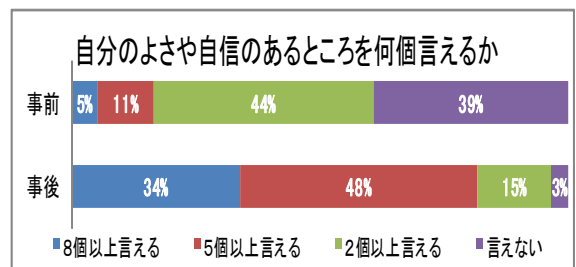


図12 事前と事後のアンケート結果

### (2) 「話し合いの手引き」を取り入れたことについて

図13の事前と実践後のアンケート調査では、「納得した話し合い活動ができた」の項目において、肯定的に回答した児童が33%から92%に増加し、特定の児童だけでなく、一人一人がしっかりと意見を出し合って納得した結論を出すことができたことが分かった。このことから、「話し合いの手引き」を取り入れたことは、児童が、自主的に話し合いを計画運営し、協力し合って話し合いをすることができたことにつながったと考える。

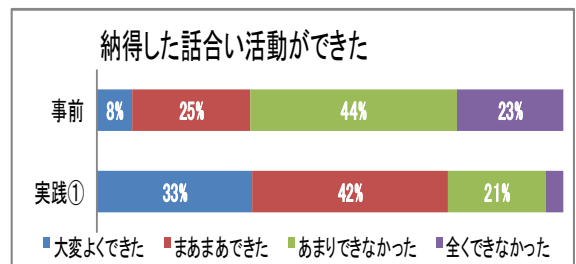


図13 事前と事後のアンケート結果

図14のように、「班や友達の役に立っている」「役割を果たし、自主的に活動できている」の項目において、肯定的に回答した児童が増加した。さらに、二つのグラフが同じ伸びを示し、個々の回答から、ほとんどの児童が二つのアンケート項目の達成度が同じ結果になるなど、相互に関連が深いことが分かった。このことから、話し合い活動に「絆シート」と「話し合いの手引き」を取り入れたことは、児童の自主的、協同的な話し合い活動や学校行事の質を高めることができ、自分を肯定的に認識し、集団の中で自己を生かし自主的に活動する意識を高めることにつながったと考える。

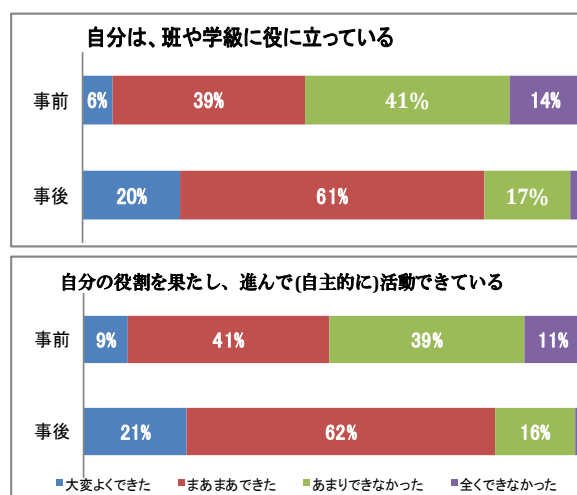


図14 事前と事後のアンケート結果

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

- 修学旅行のスローガンを作成する話し合い活動において、「絆シート①」や「話し合いの手引き」を取り入れたことで、児童は、多様な思いや願いを引き出し、考えを明確にして伝え合うことができた。また、話し合いの意義や進め方を理解し話し合いを円滑に進めることができた。その結果、学級の児童との関係をよりよくしたい思いを共有し、互いに認め合う意識を高めることができた。
- 同じ班の児童のよさを生かし役割分担を決定する話し合い活動において、「絆シート②」や「話し合いの手引き」を取り入れたことで、児童は、他の児童の多様なよさを引き出し、自分のよさに気付くことができた。また、話し合いを自主的に運営し、協力して集団決定することができた。その結果、自分を肯定的に認識し、自分の役割を進んで果たそうとする意識を高めることができた。
- 学級生活の向上に役立つ行動を自己決定する話し合い活動において、「絆シート③」や「話し合いの手引き」を取り入れたことで、児童は、学級生活の充実への思いや行動を表出でき、新たな目標を自己決定することができた。また、話し合いの意義を体得し、素直な思いや願いを全体で共有し、個から集団への意識を高めることができた。その結果、自主的に自分のよさを学級生活に生かそうとする意識を高め、互いに認め合い、自主的に活動することにつながった。

### 2 課題

- 「絆シート」は記入できても、積極的に意見を伝えるまでに至らない児童も見られた。より一層、自信をもって自分の考えを伝えられるよう「絆シート」の内容や様式を修正したり、「話し合いの手引き」の内容を充実したりするなど、児童の実態に合うよう工夫していく必要がある。
- 共有した意見を検討する場面において、児童が複数の観点で考え、賛成や反対の意見をより理由を明確にして発言できるよう、さらに「話し合いの手引き」の「意見の伝え方」や「司会の言葉」を修正し、よりよい集団決定の方向性を児童が見付けられるようにする必要がある。
- 本研究は、修学旅行での実践であったが、他の学校行事や学校生活の話し合いにおいても「絆シート」と「話し合いの手引き」を取り入れ、児童の思いや願いを生かした話し合い活動を行い、互いに認め合う関係を築き、自主的に自己を生かすことができるよう活動を継続していく必要がある。

### <参考文献>

- ・杉田 洋 著 『よりよい人間関係を築く』 図書文化(2009)
- ・高橋 哲夫 原口 盛次 今泉 紀嘉 井田 延夫 著 『特別活動研究』 教育出版(2010)
- ・宮川 八岐 著 『個性を生かす教育と集団指導』 教育出版(2003)